

Vol. 21

SMiLE niseko 代表取締役

ベイリー・ジュリアン さん

英語を使って広い世界へ



英

国ロンドン北部の地方に生まれたベイリー・ジュリアンさん。彼は自身が設立した『スマイルニセコランゲージスクール（以下スマイル）』でコミュニケーションのための英語（話す・聴く・読む・書くの4技能）を教えている。

「私は若いころから海外での生活や、さまざまな国の文化に興味がありました。10代から海外での生活をしてきました。その中でいろいろな仕事を経験しましたが、大学を卒業してないことが理由で希望の仕事に就けなかったこともあり、勉強は好きではありませんでしたが、自分の可能性を広げるため帰国し、大学に入學しました」

英国ケンブリッジ大学で教育を学

び、小学校教師の資格を取得したジュリアンさんは、卒業後に日本の文部科学省が募集するJETプログラムで赴任地に北海道を希望し、十勝地方にある町で外国語指導助手（以下ALT）となった。

その在任期間中に全道のALTが集まる会議が倶知安で開催され、初めてこの町を訪れたという。

「自分の住む町に比べ、とても国際的な場所だと感じ、また羊蹄山の姿などの自然に惹かれ、いつかこの町に住みたいと考えるようになりました」

ALTとしての任期を終え、帰国後は企業に就職したが、いつか倶知安で暮らしたいという思いは消えず、数年後に倶知安へ移住をした。

「この町の暮らしの中で、多くの人と出会い、素晴らしい経験をするうち、何か町に恩返しとなる仕事を、と考え、自身の持つ資格や経験を活かし、実践的な英語を教えることが、この地域で暮らす日本人々に必要ではないかと考えました」

地域の人々が英語の能力を身につけることは、ビジネスのチャンスを広げるだけでなく、この町で働き、暮らす外国人との距離を縮めることにも繋がっていく。そう考えたジュリアンさんは2014年スマイルを設立する。

スマイルではこれまで小学3年生から60歳以上まで600人以上の生

徒に英語でのコミュニケーションを教えてきたという。

「この教室の生徒はみんながとても意欲的です。しかし、多くの日本人はできないことや間違っていることがあってしまいます」

誰しもが外国語を完璧に習得することは、容易ではないとジュリアンさんは話す。

「それは、私が日本語を上手に話せないのと同じことです。しかし、言語や文化の違う人々とコミュニケーションをとるために重要なことは相手に伝えようとすることや、相手のことを理解しようとする気持ちです」

英語はあくまでも人と人を繋ぐためのツールと話すジュリアンさんは、この日の取材に一生懸命日本語で応じてくれた。そこには自分の意思を伝え、相手の言うことを理解しようとする気持ちがあるからだろう。コミュニケーションをとるために重要なことを、自身にとつての外国語でしっかりと実践していた。

「英語は異なる世界を知るための入場券です。私がこれまでの人生の中で見てきたようなカラフルな世界を、皆さんにも感じてほしいと思います」